

	関係(Relationship)構築	現実(Real)	交雑(Hybrid)	仮想(Virtual) 情報通信技術(ICT)
説明	<p><u>関係構築により、地域力が向上します。</u></p> <p>核となる関係として自治会内レベルと近隣地域レベル、拡大された関係として地域組織レベルと行政などレベル、合計4つのレベルがあります。</p> <p>各々に自治会中心の関係と住民中心の関係があり、合計8(=4*2)種類の関係があります。</p>	<p>現実(Real)関係としては、伝統的自治会行事として、夏祭りなどがあります。最近では、集まりつながることを目的とした、居場所づくりなど、つどい型関係が注目を浴びています。</p> <p>ここでは、防災や認知症者の徘徊対策など、つながること以外の明確な目的をもった現実関係に焦点を当て、<u>テーマ型関係</u>と呼ぶことにします。</p>	<p>現実(Real)と仮想(Virtual)とが入り混じり、相乗効果を期待できる場を<u>交雑(Hybrid)関係</u>と呼ぶことにします。</p> <p>顔を合わせる集会にオンライン参加するのも一つのあり方ですが、ここでは、現実関係に仮想を取り込む(ICT利用)のと、オフ会のように仮想関係をまず作り現実関係に広げることを検討します。</p>	<p>Z世代 (the generation Z)をはじめ若者は、SNS等を駆使して、新しい世界を構築しています。</p> <p>地域においても、SNS(Social Network System)等 ITC(Information Communication Technology)活用によって、関係を強化できる可能性があると考えます。</p>
検討手順	<p>理想としては、上記の関係を構築したいのですが、未だ、自治会を支援する会・西須磨は力不足です。</p> <p>実際には、自治会を支援する会・西須磨として、地域住民、地域自治会、地域組織、行政などとの関係をもてるよう、働きかけていきます。</p>	<p>暮らしやすいまち実現の姿として、地震など大災害が発生した場合に当面をしのげる関係の構築、認知症になった人が安心して徘徊できる地域にするなどを想定して、できることから着手していきます。</p>	<p>まずは、交雑(Hybrid)活用を念頭に、現実(Real)関係と仮想(Virtual)関係の構築を目指します。</p> <p>次に、現実(Real)関係や仮想(Virtual)関係の構築が進んできたら、各々、ITC活用や現実関係への拡張を検討します。</p>	<p>一つは、既に運営し情報発信を続けている、ホームページ特にブログ発信を継続して、チャンス伺います。</p> <p>もう一つは、ラインワークス、ノーコード・アプリ開発、質問SNSなどにITC活用ターゲットを絞り込み、それらを習得するとともに活用を図ります。</p>
備考	<p>具体的には、現実(Real)関係と仮想(Virtual)関係、さらには交雑(Hybrid)関係を構築していきます。</p>	<p>具体的には、地域組織などを巻き込みながら、テーマ型行事の実施を目指します。</p>		<p>どのような技術が必要かを見極め、足りない部分は外部の専門家の協力を求めています。</p>